相

第 37 号

発行所
〒157−0065
東京都世田谷区成城1−13−1
武蔵工業大学付属中・高等学校内
電話　03−3416−4161
発行責任者　阿部俊夫
編集責任者　清水茂

美術の授業を通して

副教頭　堤　清



長年美術教育に携わってきました。在職この間、美術での子供像も変化してきています。自由な発想の上では硬さがあるが、意識的な創造活動が出来た時代。自由な発想は出来るが、緻密な仕事や継続的な仕事が苦手になってきた時代。更には、いろいろと思いめぐらすがまとまらず、道具使いも苦手な時代と、何か逞しさが薄れてきています。美術教育が目指すものは、単にものを作ると言うことではなく、美術を通しての教育（Education through Art）と言う方が正しく、ものづくりの実際の体験を通して、自己の観察・行動・把握を蓄積し、技術的にも、感性の上でも、意識の上でも高めていく過程を重視した学習です。美術の授業は、場の設定であり、刺激や活動の設定の場であると言えます。

個々の活動を尊重し軸として、創造的な活動を続け、個々の潜在能力を引き出し、生活に於ける活動の可能性を引き出し確認していくことが、美術の根底の活動と言えます。人間づくりの基本的活動です。

ところが、近頃美術の授業の中で子どもたちの動きがどうにも気になります。授業での子どもたちは、非常に明るく、素直で純粋な動きや、現代っ子の情報に対する鋭敏な感性や、器機の巧みな操作や、豊富な情報知識など、目を見張るものがあります。

こうしたすばらしい力を持つ一方で、多くの子どもたちが筆や鉛筆といった簡単な道具をも満足に使えない現状や、配布プリントを綴じることが出来ない現状や、自分の独自の意見を具体的なものに示す手順が分からず、延々と時間の経過を見るといった状況が頻繁に授業の中に現れてきます。粘土の作品がまとめられず涙ぐむ子どももいます。

現状の状況下での美術教育は、範囲の拡大やコンピューターグラフィックの様な華々しい分野の拡大とは別に、基本的な活動や人間

〈同窓会設立25周年〉
＝記念＝総会・懇親会

卒業生の皆様、ぜひお出かけ下さい

日　時　2001年11月9日（金）
・18時30分より総会
・19時より懇親会

会　場　渋谷・エクセルホテル東急（渋谷マークシティー内）6階プラネッツルーム
TEL.03−5457−0109

会　費　●個人参加4,000円（食べ・飲み放題）
●グループ参加（同級生・先輩・部活仲間に声を掛け合って3名以上のご同伴で）
・3名参加＝10,000円
・4名または5名の参加＝追加1名につき3,500円
・6名以上での参加は上記3名参加2グループとします。

＊会場は従来の東急ゴールデンホールが閉鎖されましたので、今回からは新しく上記会場となりました。是非ご来場下さい。今からご予定を！

的な成長での積み重ねの上で危機的状況にもあると強く感じます。

美術は、個々人の主体的な活動を軸としています。個々の生活での動きのパターンが表面化します。

すべてに過剰な社会では、子どもたちの生活での基本的な活動が省略され易く、情報処理の手際よさに比べ、ものを見つめ感ずる目を鈍化させ、主体的な動きを鈍らせているといっても過言でない状況にあります。

当然、汗を流し働く事への感謝の気持ちを理解することや、物を大切にする姿勢も薄らいできています。仕事のやりっ放しや道具やものの使い放しも生活で目立ちます。核家族化の現象も更に進み、ごく普通の人間的な交わりを危うくし、友好的な能動的な活動を弱めています。

一方で、受験への過激な反応は、親の子どもへの教育期待度へも影響を及ぼし、幼児教育の早い時期から、記憶力や知識を中心とした学習へ関心が移り、学校の成績や知識豊富な論理性などが先行し、個々人の独創性や能動的な姿勢、自己の責任や、思いやりや、相手の意見の把握など、人間的な結びつきや個々の能動的な姿勢を基礎知識として理解しつつも、当面の、個々の人間づくりの目標に据えがたいという状況をも引き起こしています。

現在、中高校では、少子化傾向や私学の直面する問題への対処を含め、新しい時代に向けての学校づくりを進めています。

概略的機構は、6カ年を意識した、早期からの進路対応学習体制です。多くの新しい制度が生まれました。これらの制度は、生徒の将来へ結びつく学習体制として、本校の創意であると共に、中高校に対しての父母や生徒のニーズであるとも言えます。

学校が、社会への準備段階としての位置付けは、将来変化のないものであり、生徒個々人を重視し、潜在する可能性や能力を引き出し、その動きに対応できる体制を用意する事は、学校の仕事であると言えます。

一定の流れの中で、個々人の学習での選択幅の拡大や、個々の可能性を引き出す上での学習体制の設定は、学習環境や態勢づくりの上で、より一歩前進したと言えます。

更に、現在生活面での見直しも進められています。子どもたちの授業での動きを見るにつけ、基礎知識を、偏差値や記憶に頼る知識として限定せず、広く日常的な基礎知識として、豊かな感性と自己の意見をしっかりと持てるプログラム設定が必要だと感じます。行事や委員会、部活動、更には、生活ルールを含め、本校の良い伝統的な行動パターンを洗い直し、個々人の活動を軸に据えた継続的な、個性や独自性を高く評価する姿勢を学校として保持する事が大切だと考えます。

理事会報告

事務局長　塩満　守

本年度後半の主要課題は、「同窓会二十五周年」について、重点的に検討されました。

一、総会、懇親会について

今年は、ムサ校創立五十周年、同窓会設立二十五周年の年にあたるため、当初学校側も記念パーティーを含む記念式典を考えていたが、新校舎の建設（予定では3、4年後）を控えており、今は余分な出費を避けたいとの事から、見送りと成ってしまいました。今のところ学校側としては、新校舎完成の折、竣工式と併せて記念式典を考えております。（四月の高校側の創立五十周年記念委員会にて、最終結論が出ました。）

学校側とは全く別に、同窓会設立二十五周年を一つの節目と考え、今までとは一味も二味も違った懇親会にしようと考えて居ります。

日程は、例年通り、十一月第二金曜日と決まっております。

但し会場は、一昨年まで毎年利用していた、ゴールデンホールが無くなり、新たな場所探しから始めました。

最終的に、渋谷エクセルホテル東急と言うことで会場が決まりました。毎回、ここからが一番頭の痛い問題で、「多くの会員に集まって頂くにはどうすれば良いか。」と言うことで、毎回知恵を絞って、福引きやビンゴ、そして場を盛り上げる為にコンパニオンを呼んだりと、毎回趣向を凝らして参りましたが、やはり回を盛り上げるのは参加される会員の皆様です。

近年、校長先生以下、先生方の参加も増え、それにつれて会員各位の参加も微少ながら増えております。

しかし、まだ決して多いと言えるほどの人数には達してはおりません。会員各位に於かれましては、同期生、先輩、後輩をお誘いの上、是非ご参加下さい。

二、柏苑祭への参加について

本年度の柏苑祭は十月七・八日です。

平成七年（第37回）より、同窓生の立ち寄れる場所として、ささやかではありますが展示と喫茶コーナーを開設して参りました。同窓会の日頃の活動と、柏苑祭を見学にみえる同窓生同士、または先生との交流の場として場所を提供し、合わせて日頃の同窓会活動を在校生、PTA、そして先生方に理解して頂こうと言うのがその大きな目的です。

また現在では、柏苑祭当日（学校側で）行っている進学相談会もその起こりは、柏苑祭を見に来られていた受験生（小学生）の父兄と同窓会理事のお茶のみ話が、ここまで発展したモノです。

また今年も何か新しい発見が出来るかも知れません。

この機会にまた母校を訪れてみては如何でしょうか。

《公示》同窓会総会開催について

第26回総会を下記の要領にて開催いたします。同窓会会員（卒業生）はご出席下さい。

今回の総会は、当同窓会設立25周年としての記念総会となります。厳しいご時世ではありますが先輩方・後輩方との親交を深めて下さい。

尚、付属高等学校開校50年行事についても皆さんのご意見を提出して下さい。

記

日　時　2001年11月9日（金）午後6時30分より
場　所　渋谷・エクセルホテル東急6F プラネッツルーム
議　題
1号議案　2000年度（2000年10月1日～2001年9月30日）活動報告
2号議案　2000年度（2000年10月1日～2001年9月30日）決算報告
①一般会計報告
②名簿関係収支報告
③第25回総会決算報告
④繰越金内訳
⑤会計監査報告
3号議案　2001年度（2001年10月1日～2002年9月30日）活動計画
4号議案　2001年度（2001年10月1日～2002年9月30日）予算案
5号議案　その他

懇親会のご案内

総会終了後、同一場所において懇親会を開催いたします。週末の夜、仕事を離れ、懐かしい友や先生方と飲食を共にしながら楽しいひとときを過ごしてはいかがでしょうか。お仕事の都合で総会に間に合わない方でも歓迎いたします。

日　時　総会終了後（7時開会予定）
場　所　総会と同じ場所（楽しい企画を楽しんでください）
会　費　巻頭ページ参照（飲み・食べ放題）

＊参加者を増やしたい事務局の意向に是非ご協力ください。

第14期（昭和42年3月卒業）∞同期会∞

本年11月9日（金）に開催される25周年記念同窓会会場にて上記『同期会』を行います。別途、同期生の皆様にご案内を送付しますので是非、ご参加下さい。

◆問い合わせは　野田孝男（14期）
(03) 3717-1695 へ

第19期（昭和47年3月卒業）∞同期会∞

今秋開催される懇親会会場にて同期会を併わせて行いますので是非、ご出席下さい。

◆問い合わせは　塩満　守（19期）
TEL・FAX (0462) 54-8204

第21期（昭和49年3月卒業）∞同期会∞

本年、秋の「総会」で同期会やります。みんな参加してくださ一い。

2001年11月9日（金）18時30分～

◆問い合わせは　神田清人（21期）
(03) 3509-6460
E-mail:kanda@tka.att.ne.jp

第43回「柏苑祭」

当日、母校を訪ねて
みませんか！

日時　平成13年10月7日(日)・8日(月)祝
場所　武蔵工業大学付属中・高等学校
（小田急線成城学園前駅下車徒歩10分／
田園都市線二子玉川駅
よりバス20分）
新校舎　133教室(3階)

- 本校の歴史、卒業アルバム、その他企画検討中
- 喫茶コーナー
- 進学・入学コーナー



投稿

ITもデフレ経済では幻想か



塩満　守（十九期生）

今年の初め、IT好景気に浮かれていた米国市場において、怪しげな雲行きになってきたと思ったら、アッという間に米国市場は土砂降りの雨となってしまった。その影響を、もろに受けた日本市場は、雨どころか嵐と化してしまっています。

東証も、下げ相場一本で、市場関係者の間では、一万円を（ダウが）切るのも時間の問題とまで言われている昨今、毎日の様に新聞紙上を「リストラ」と言う言葉が飾っており、ハブル崩壊直後を彷彿させています。特に今回は、今までどちらかと言うとIT景気に乗って、そここそ売り上げを伸ばしていた大手家電メーカーの名前が毎日の様に出てきており、心中穏やか成らざる日々を送っている方も多いかと思います。

現に、政府発表でも、まだ景気の後退は止まらないとか、失業率が5％を越えたとか、毎日毎日胃の痛くなる様な話しか聞こえてこない。5％と言えば、20人に1人の人間が失業すると言う数字であり、失業が身近になったと言うことです。

そもそも今回の事の起こりは、米国の好景気に陰りが見え始め、その中心的な存在であったIT業界の（IT）バブル崩壊に起因するところが大きい…。しかし、よく考えてみよう…。このIT革命と言われる中、我々の生活がどんな風に良くなったか？

政治家や学者、財界人までもが『21世紀の産業革命』とか『IT革命が日本を救う』とか、話を聞けば皆、バラ色の未来を想像したに違いない。

eコマース、eビジネスとか、我々が聞いてもピンと来ない様な言葉を並べられ、わざわざこちらから出て行かなくても、自宅においてコンピュータで簡単に買い物が出来るとはやしていたモノの、果たしてそれが日本人のカルチャーに合うかと言った時、私は？？？としか言いようがなかった。

米国の様に広い国土を持っていれば、それも有効かとは思うが、欲しいモノが近くで直ぐに手に入る環境下で有り、（安いモノならいざ知らず）高価な買物で、現物を見ないで買うリスクはまだ日本人には馴染まない。

また、簡単便利にモノが買えるからと言って、何でもかんでも今まで以上に買うかと言えば、これもまたNOとしか言いようがない訳である。

日本人の収入が、今の倍にでも成れば話は別かも知れないが、現状はバブル崩壊後みんな爪に灯をともす様な生活を強いられている現状。簡単に買えると言っても、〝はいそうですか〟と乗れるはずもない。

要は、モノと金の回り方が変わっただけで、本質的には何にも変わっていないと言うのが現実ではなかろうか。

逆に、サラリーマン（特に営業職の方）は今まで以上に重圧を感じているのではないだろうか。会社からパソコンと携帯電話を渡され、今までなら事務職に任せていた事務処理を、全部自分でやらなくては成らず、外に出れば業務連絡は頻繁にmailで送られて来るし、携帯電話でその行動は管理され、仕事量は以前にもまして増えているはずです。

果たしてこれが、IT革命といえるモノなんでしょうか？

理解してくれた亡き旧友

仁戸部　弓彦（三期生）
〈初代同窓会事務局長〉



美術界には幾つかのコンペテションがある。主催者側は格好のよい謳い文句をつけているが、本音は主体となる企業の体質自慢を喧伝するところにある。むろん、かなりな物入りだから中小企業は無理で、日本を代表する大どころがその任に当たる。大どころは、展覧会を宣伝と心得る。賞金は一〇〇万円のところが大半である。この賞金獲得に絵描きたちが競いあう。楽しきかな競争社会、というところだろうか。

昔、『シェル美術賞』というのがあった。日本の絵画コンペテションのはしりのような存在で、昭和三十一年から五十六年までの二十五年間続き、当時「画壇の登竜門」といわれたもので、大賞は1年間のパリ遊学という副賞つきで、パリに住みついたまま客死した画人もいた。当然、私も大賞を狙った一人だが、初回出品は落選で、次回を狙ったら、「その役目を充分果たした」という企業側の説明で、当方の夢は消えてしまった。「役目を果たした」のは言い訳で、シェル石油は左前で美術展どころではなかったのである。

ここで、日本の美術界は学歴社会であることを指摘しておきたい。もっとも、美校出身者ではない筆者のヒガミといわれてしまえばそれまでだが……。

オイル・ショックだったかニクソン・ショックだったか記憶が確かではないが、日本経済が混乱し、フリーのグラフィック・デザイナーだった私は、無収入に追い込まれたことがある。その頃は、まだ「不況に強い出版界」のいい伝えが残っていて、何とか挿絵画家になれたのだが、そうなると、本格的な画家になりたい、との欲望が目覚めてくる。母親が日本画家を目指した女で、中学生の頃から油絵の具と遊んできて、高校生時代に小城基先生に可愛がられたとなれば、学歴なんぞクソクラエで、闘争本能を掻き立てられた。

『シェル美術賞』はなくなっても、他にもコンペはあった。が、入選はしても、受賞できず、賞金の夢は現実とはならなかった。

ところが、いわゆる「団体展」では幾つもの賞を頂戴し、その度に絵の具やらキャンバスやらを手にしたが、私が本当に手にしたかったのは日本国発行の紙幣である。

その私が『昭和シェル石油現代美術賞展』の存在を知ったのは、油彩画の世界でも多少は名前を知られるようになった最近のことである。ところで、私が曲りなりにも画家らしきものになれたのは、高校（母校）のクラスメイトである太田庄司君が大きく関わっている。彼は、私が出品する東京周辺での展覧会は必ず見に来てくれた。辛口の批評をしては激励し、「今はオレより収入は少ないだろうが、いつかはお前の方が多くなる。オレたちサラリーマンには定年があるが、お前は死ぬまで現役でいられる」という。この言葉には弱かった。涙が出るほど嬉しかった。


自作の前で

彼が同窓会を再建した仲間の一人で、ナイナイづくめの中で再建した当時の苦労を分かちあった友人の一人であったのも、私の胸を熱くした原因の一つである。

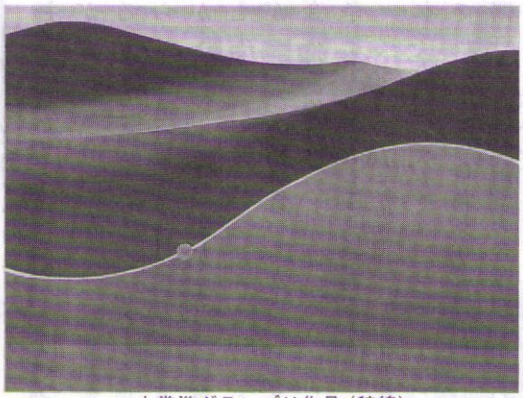
その彼が、定年退職後一年余りで他界した。死因は末期の食道癌である。『昭和シェル……』を知ったのは、彼の死の直後の団体展の時のことで、退屈しのぎに眺めた会場備えつけの美術雑誌の広告であった。

〝昭和シェル石油現代美術賞展〟は『シェル美術賞』の延長線上にあるもので、昭和石油とシェル石油が合併してから十周年を迎え、それ

を記念して創設されたもので、私の応募は第四回展であった。一点だけ出品し、準グランプリを頂いて太田君に一周忌の墓前に報告をした。当然といってしまえばそれまでだが、準グランプリは二名だったので大賞賞金三〇〇万円も二分の一。パリ遊学は最初からなし。シェル美術の頃とは世情が異なり、副賞ではなくてもパリへ簡単に行ける時代になっているのである。受賞は、関係者には瞬く間に知られた。純粋に祝ってくれた人もいたが、大半はそうではなかった。だから、祝宴は家人たちとだけであった。

知人の個展を訪れたとき、次のように出品者からいわれたことがあった。賞金はどのように使ったかの質問に、「家内に奪われた」と返答を面白くする私に、「あんたロクな仕事をしていないし、働こうとしないんだから当然よ」。冗談にしてはトゲがありすぎる。ちなみに個展の出品者は現役の公立中学の女性美術教諭で、絵は売り物ではないと日頃からいっているらしい。彼女のような高尚な人間は、絵で生活しようとする人間は下賤なのだろう。

しかし、洋の東西を問わず、一世紀余り前まで画家は職業だったのである。



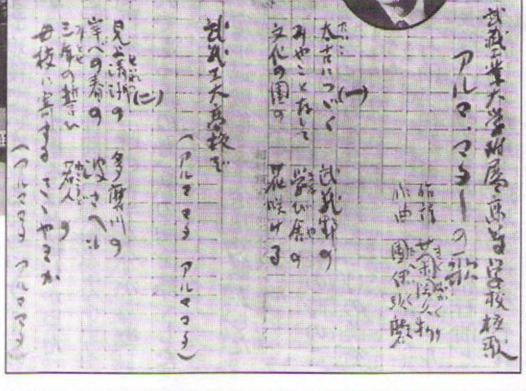
大賞準グランプリ作品（稜線）

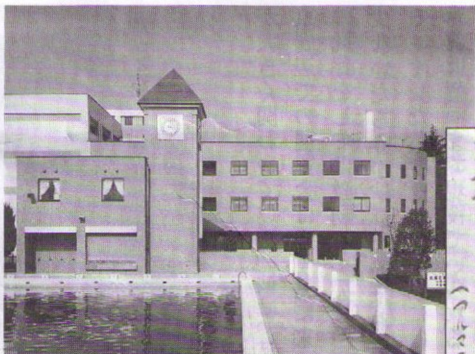
母校だより

●母校では卒業生のご子息が本校を受験・希望する際には今後特別枠を設けることを検討しています。詳細は同窓会行事にご出席の折にでも是非、事務局にもご相談下さい。

●母校の校歌（アルマ・マターの歌）を作曲した團伊玖磨氏（77歳）が平成十三年五月十七日に中国・蘇州で急逝された。『交響曲第一番イ長調』、オペラ『夕鶴』は有名。文化功労者。古いものでは『ぞうさん』『やぎさんゆうびん』などが親しまれている。最近では日中文化交流協会会長として日本・中国の民間交流に活躍されていた。ずばらしい作曲家に作っていただいた母校の歌が今後、母校関係者に愛されることを願いたいと思います。







＝おことわり＝
〈懐かしい顔〉はお休みさせていただきます。

苛政猛於虎也

カセイはとらよりもモウなり

孔子過泰山側　有婦人哭於墓者而哀　夫子式而聴之使　子貢問之曰　子之哭也壹以重有憂者　而曰然　昔者吾舅死於虎　吾夫又死焉　今吾子又死焉　夫子曰何為不去也　曰無苛政　夫子曰小子識之　苛政猛於虎也

孔子泰山の側を過ぐ。婦人墓に哭する者有りて哀し。夫子式して之を聴き、子貢をして之に問わしめて曰く、「子の哭するや、壹に重ねて憂い有る者に似たり」と。而ち曰く、「然り。昔者吾が舅は虎に死し、吾が夫又死し、今吾が子又死せり」と。夫子曰く、「何為れぞ去らざるや」と。曰く、「苛政無ければなり」と。夫子曰く、「小子之を識せ。苛政は虎よりも猛なり」と。

原稿募集

編集委員会では、同窓生の近況等、皆様の原稿を待っています。"懐かしい顔"コーナー・随筆・漫画等々幅広く記事を探しています。

編集部：清水（14期生）
TEL.03―3595―0058
FAX.03―3595―0021

第10回　武蔵クラシック報告



開催日　平成13年7月20日（祝）
コース　ジャパンPGA
ゴルフクラブ
（千葉県君津市）
成　績　下記の通り



優勝　江島修先生

順位	氏名	卒期	OUT	IN	TOTAL	HP	NET
優勝	江島　修	教員	37	39	76.0	6.0	70.0
準優勝	斎藤　勉	事務長	43	43	86.0	13.2	72.8

順位	氏名	卒期	順位	氏名	卒期
3	野島富雄	19期	16	渡辺真己	24期
4	杉浦直樹	24期	17	門　道之	校長
5	鈴木文久	19期	18	柿下良治	教員
6	斉藤　雅	／	19	佐藤　明	17期
7	岩佐和彦	17期	20	細谷和夫	12期
8	高橋　隆	19期	21	宮原　茂	24期
9	平　良弘	19期	22	萩原陸宏	31期
10	尾形俊行	24期	23	前島　巌	教頭
11	遠藤義和	12期	24	須田眞二	30期
12	加藤直樹	24期	25	塩満　守	19期
13	井出淳一	17期	26	稲垣俊介	19期
14	三厨俊夫	19期	27	増田術史	24期
15	岡崎光敏	23期			

競技方法：ペリア12
打数制限：PAR × 2
HDGP　㊤　：36.0
〃　㊦　：0.0



同窓会懇親ゴルフ実行委
宮原　茂（24期生）連絡先 03-3703-1541

（言わせろ）



杉浦直樹（二十四期生）

なんたって当日は暑い日でした。ともかく。そしてがんばりました。なんと四位入賞です。感激です……トホホ。

おかげ様でここ数年、親睦コンペに参加させて頂いております。

また、毎年すばらしい思い出としてきざまれます。同時に中学・高校時代に先生に怒られた思い出もしっかり浮かび上がってきます。どうしたものでしょう！？

来年こそは優勝目指して、また、お元気な皆様の姿を拝見できますよう楽しみにがんばっていきたいと思います。

今後ともよろしくお願い致します。

＝（母校）創立50周年記念誌発刊のお知らせ＝

懐かしい『写真で見るムサコーの歴史』

母校（高等学校）は本年3月満50周年を迎え、本校に設置された50周年記念事業準備委員会では、上記タイトルで写真にみる記念誌を発行（9月下旬）します。創設以来の貴重な写真を集め、また、各時代ごとに校舎、生徒、先生方のスナップを含めた価値ある写真集です。卒業生の皆様にも当時を思い出して、また青春の１ページを捲って下さい。是非、お手元へ。

〈規　　格〉A4版　23ページ　モノクロ・カラー
〈頒布価格〉￥1,500／（郵送料込み）〔振込口座指定〕
〈部　　数〉限定300部
〈申し込み方法〉

「記念写真誌購入希望」と官製はがきに記入し、住所、氏名卒業期または年度連絡先TELを明記の上、下記へ。
〒157-0065
東京都世田谷区成城1-13-1
武蔵工大付属中・高等学校内「同窓会事務局」宛

なお、本年の「柏苑祭」10月7日・8日、「同窓会・総会」11月9日に受付にても販売の予定。こちらもご利用を。

連絡先　03-3595-0021（FAX）清水（14期生）まで

訃報

水谷隆治先生ご逝去



数学の水谷先生が去る五月二十一日、脳梗塞のため急逝されました。五十九歳でした。昭和三十九年以来三十七年間、母校の教壇に立たれた先生らしい先生としての、厳しさと優しい姿が思い出されます。心からのご冥福をお祈りいたします。

編集後記

巻頭では、母校で長年美術を担当してこられた先生に原稿をお願いし、ご体験から生徒の変貌を教育者の視点から記していただけた。

創造力を養うこととは、現状を一生懸命に広く経験・実践することで、経験したことも無い過去への理解を深め、これらに繋がりを持たせることで近未来を予測・実践していく作業でもある。古い物も思っているより文化の中で当時の知恵と工夫が生かされている。

昨今の子供たちは一方的に与えられる物が過剰。また、容易に手に入る。資本力に物を言わせて、大手を振ってくすねてきた大企業（これの影に税制上の優遇策が存在）。便利な物としての触れ込みは良いがよくよく考えると無くても済むものも多い。逆に邪魔にさえなる。

ルール無き資本主義国として定評のある昨今の我が国の経済一辺倒社会は日増しにどん底へ。株価の一万円割れも果たした。官僚の悪知恵と、政治の「国民・生かさぬ様殺さぬ様」を掲げて幾十年。行きつく先が見えてきた。然しである。これからは一人の国民としての意識を持ちリベンジ体制を固めつつ、総決起するしか無いのでは！

この編集後記をまとめ上げている今、テレビニュース第一報。ニューヨーク世界貿易センタービルがテロ攻撃により旅客機二機突入。炎上。一時間弱後にはこの二つの建物が崩壊。イスラム原理主義の攻撃とか。一瞬感じたことは、我が国も先進諸国の中でも突出した軍事費を抱える経済一辺倒国。覇権国といわれるアメリカの尻馬に乗っているといつかは我が国も標的に。心しておく必要はある。なぜならばイスラム統一戦線は〝米国人とその同調者を殺すことがイスラム教の義務〟という。

清水（十四期生）